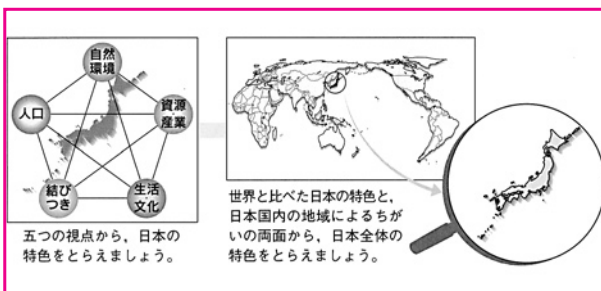


世界と比べてみた日本

八丈町立三原中学校 石井 千歳

1 目標と工夫の意図

この章は、世界と比べてみた日本の特色と日本全体からみた国内各地域の特色を追求し、それぞれの特色を明らかにする視点や方法を身につけさせることを目標としている。



「中学生の地理 初訂版」p.131

そこで、「自然環境」、「人口」、「地域間の結びつき」、「生活・文化」、「資源・産業」という5つの視点から日本の地域的特色を捉えさせる。

2 5つの視点で比較して考える授業展開

日本の国土の特色を学習するうえで、その自然的・社会的条件を関連させて捉えさせた学習を中心に行うことが、生徒への興味・関心を一層高める。その際、授業を行ううえでの配列が重要になる。たとえば、「産業」学習をする場合、最初に「産業」が成り立つための様々な要素を学習し、そのことを土台に「産業」学習が深まるように、「資源・産業」

の学習を最後に配置する。このことが、他の4つの視点との関連性を深めながら学習できる所以である。「自然環境」、「人口」、「地域間の結びつき」、「生活・文化」と前後の単元を相互に関連・リンクさせながら学ぶことにより「気づき」・「発展」を繰り返す。そして、「産業」学習で日本の国土理解がより発展的に捉えられるようになる。

①自然環境(地形)と人口とのリンク… p.136

日本の人口があつまっているところを地図帳で調べ、図③と比べてみましょう。



「中学生の地理 初訂版」p.136、p.154

気づき…小規模な平野だけでなく、内陸部に分布する盆地にも人口が集中していることに気づかせる。

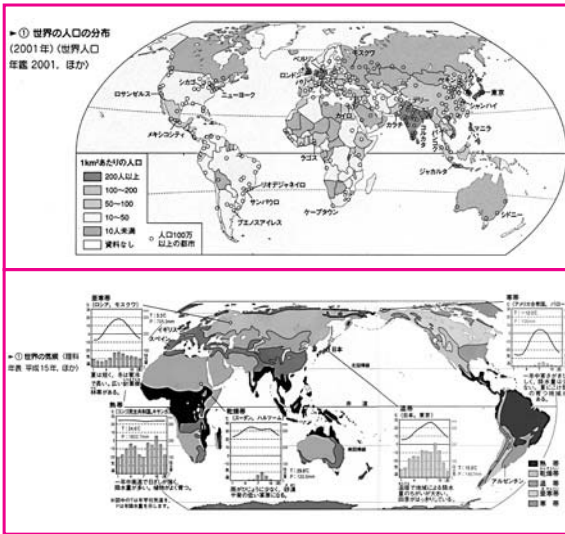
人口集中地域に重なり合っている平野・盆地名を発表する。

関東・濃尾・大阪平野、甲府盆地

発展…平地だと水が得やすく、盆地・三角州では土地が肥えているため農業が普及してきたことを考えさせる。それに伴い他の産業も発展し広がりを見せる。

②人口と自然環境(気候)とのリンク…p.150

人口の分布と気候にはどのような関係があるのでしょうか。p.150図①とp.138図①を比べ。考えてみましょう。



「中学生の地理 初訂版」p.150、p.138

気づき…温帯を中心とした温暖な気候に人口が集中していることに気づかせる。

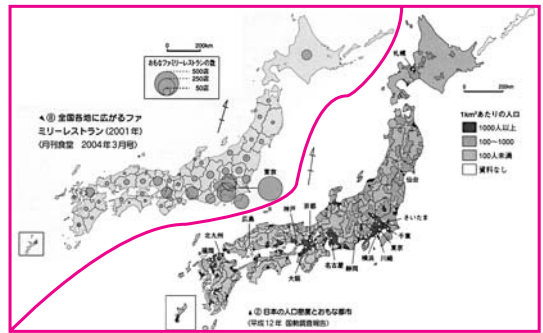
1 km²あたりの人口が多い国および、人口100万以上の都市分布を確認する。東アジア、南アジア、ヨーロッパ、アメリカ合衆国

発展…赤道に印をつけ、赤道直下でも人口集中地域があることを考えさせる。

高地…エクアドルのキトは温帯
低地…シンガポールは貿易港

③生活・文化と人口とのリンク…p.177

ファミリーレストランの分布と人口や都市の分布には、どのような関係があるでしょうか。p.177図⑧をp.154図②と比べて、考えてみましょう。



「中学生の地理 初訂版」p.177、p.154

気づき…ファミリーレストランが全国に分布する中で、人口密度が多い地域に集中していることに気づかせる。

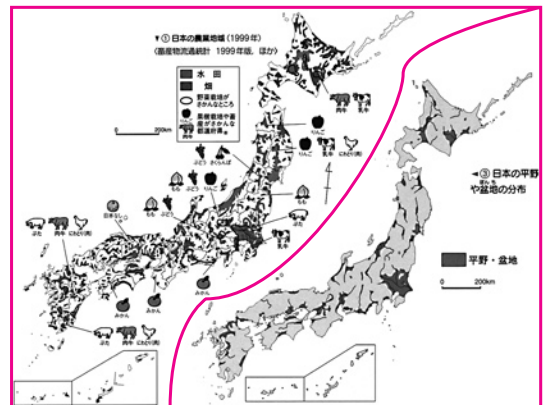
三大都市圏(東京・名古屋・大阪)

発展…ファミリーレストランと同じようにアメリカ風の生活・文化を広げているものを考えさせる。世界的規模で、生活・文化の画一化が進んでいる。

④資源・産業(農業)と自然環境とのリンク

… p.200

稲作地域がさかんな地域はどのような地形でしょうか。p.200図①と、p.136図③とを比べてみましょう。



「中学生の地理 初訂版」p.200、p.136

気づき…平野や盆地など、水が得やすいところで稲作が盛んなことに気づかせる。

北陸地方などでは、豊富な雪解け水が農業用水に使われる。

発 展…北海道、関東の平野に畑の分布が多く見られる理由を考えさせる。

北海道…火山灰地、濃霧

関 東…関東ローム、大消費地

⑤資源・産業(第3次産業)と人口とのリンク

…p.210

第3次産業の割合の高い県と、人口や都市の分布には、どのような関係があるでしょうか。p.210図④とp.154図②を比べてみましょう。



「中学生の地理 初訂版」p.210、p.154

気づき…人口が集中している大都市やその周辺で、第3次産業の割合が高いことに気づかせる。

東京都、千葉・神奈川・福岡県

発 展…第3次産業の割合の中で沖縄県の割合が高いことに注目させ、その理由について考えさせる。

亜熱帯の気候を生かした、観光産業がさかん。

3 留意点

それぞれ下記の点に留意して指導しよう。

(1) 地理的技能(見方・考え方)を身につけるために、單元ごとに設定されている

【地理の見方ポイント】を活用する。

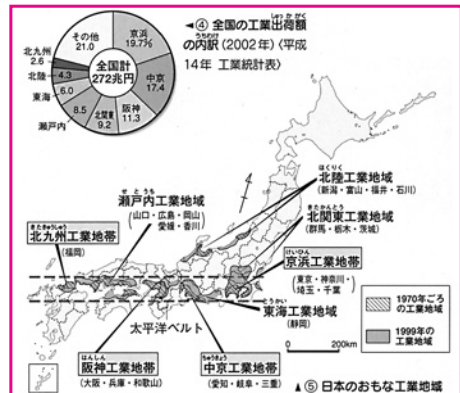
p.165 交通網の発達による地域の産業や生活の変化は、鉄道や道路・空港が開業した年に注目して変化をみてみると、とらえやすくなります。

- (2) 情報通信ネットワークを活用して地域情報を収集する。
- (3) 歴史分野との連携および公民的分野との関連に配慮する。
- (4) 日本の地域的特色を取り上げる範囲は必要最低限にする。
- (5) 国内の地域的特色は、都道府県規模よりも細かな事象に深入りしない。

4 「日本の工業地域」を扱った授業実践事例

(1) 視点を重ね合わせて工業の特色を探る。

①基準となる資料図をしっかりと読み取る。



「中学生の地理 初訂版」p.190

気づき…工業地域の多くが沿岸部に分布していることに気づかせる。

(ア) 4大工業地帯を中心とした太平洋ベルトに工業地域が集中している。

(イ) 工業出荷額の内訳をみると、沿岸部ではなく、内陸部に立地する北関東工業地域が、第4位に入っている。

発 展…**気づき**を整理させ、工業地域の立地条件を様々な視点から考えさせ他の資料図で確認する。

(ア)資源の少ない日本が、原材料を安

- く大量に入手するには海上輸送を活用し外国から輸入する。p.162図②
- (イ)製品を輸出し利益を上げるためには海上輸送の活用。p.162図②
- (ウ)工場用地を確保するには、沿岸部の埋め立てや平野に広がる農地を工業用地に転用させる。p.136図③
- (エ)労働者と消費者の確保について。

↓…確認の具体例

②基準となる資料図と人口をリンクさせる



「中学生の地理 初訂版」p.154

気づき…工業地域の分布に日本の人口密度とおもな都市を重ね合わせ比較させる。

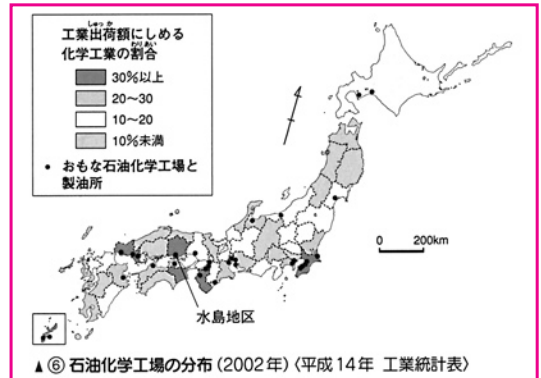
1 km²あたりの人口が1000人以上の3大都市圏(東京・名古屋・大阪)および太平洋ベルトと分布が重なり合うことに気づかせる。

発 展…人口が集中している地域は、工業地域にとって豊富な労働力と消費者として活用されていることを考えさせる。また、人口流入の問題点にもふれる。

※ 最初に、基準となる資料図をしっかり読み取らせることが重要になる。次に、自然環境(位置)、人口(労働力や市場の存在)、原料・製品の輸送(結びつき)など、これまでに学習した内容(資料図)と重ね合わせ、比較することにより日本の工業の特色がより見えてくる。

(2) 地域事例からさらに発展させる

①石油化学工場



「中学生の地理 初訂版」p.191

気づき…石油化学工場が沿岸部に分布し、太平洋ベルトでは、化学工業の出荷割合が高いことを気づかせる。

発 展…原料となる石油は輸入に頼っている。大型タンカーを接岸し製品化できる立地条件を考えさせる。また、同じような分布を示す工場を予想させる。



「中学生の地理 初訂版」p.190、p.191

※ 岡山県と広島県の沿岸部の景観写真の読図にポイントを置く。埋立てでできた地形、地理的な位置など共通点を見つけさせる。石油化学工場と製鉄所という異なる工場が、立地条件では、共通する分布となることをおさえる。

②IC工場

気づき…IC工場が内陸部に分布していることに気づかせる。

発 展…ICが何に使われるかを考えさせる。空港などの交通網が整備されることで立地条件が変化することをおさえる。



「中学生の地理 初訂版」p.194



「中学生の地理 初訂版」p.193

※ 1955年と1999年の北関東の工業地域の変容を資料図から読み取ることにポイントを置く。内陸部の変化は、新幹線、高速道路などの交通網が整備されることにより大きく変わっていくことをおさえる。

内陸部の工場分布の事例として、パルプ・製紙工場やセメント(窯業)工場のように原材料が内陸部に分布し、工場自体も内陸部に分布するものがあることにもふれる。



5 評価

(1) 評価基準

①社会的事象への関心・意欲・態度

世界や日本の地理的事象に関心をもち、それらに対して積極的・意欲的に追求しようとしている。

②社会的思考・判断

世界全体、日本全体、国内の事例地域という異なる地域スケールで、さまざまな地理的事象について考察している。

世界や日本の諸地域における地理的事象の特色を、自然環境、人口、地域間の結びつき、生活・文化、資源・産業の5つの視点から捉え、考察している。

③資料活用の技能・表現

世界や日本の地域的特色を理解するために、地図や統計、グラフなどから地理的事象の特徴を読み取る読図力を習得する。

地図化やグラフ化などの作図力を高めることにより地理的情報処理能力を身につけ、地域の地理的事象を分析したり、分析結果を発表する能力を身につける。

④社会的事象についての知識・理解

自然環境、人口、地域間の結びつき、生活・文化、資源・産業の5つの視点から、世界や日本の諸地域における地理的事象の特色を理解する。

世界的視野からみた日本の地域的特色、日本全体の視野からみた国内の諸地域の特色を理解し、それらの知識を身につける。

(2) ワークシート

この章では、1部・2部での学習を基礎に、調べ方や学び方が定着していく課程を認識させる必要がある。生徒に、その変容を認識させるためのワークシートには、資料図から気がついた点、また、他の資料図と比較して気づいた点や、発展的な考え方を記録できる欄を設ける必要がある。また、自己評価欄も設け毎時間自己評価を行う時間を設定する。

(3) まとめ

調べ方・学び方の指導で大切なことは、読図力・作図力を計画的・系統的にそだてることである。